

今月のコラム

花育と食育

福井シード株式会社
代表取締役 井村裕治



最近何気なく言葉として発し、利用している言葉に「食育(しょくいく)」と「花育(はないく)」があります。

私の場合は、野菜の育種や種子の販売をしている関係で、どうしても「食育」という言葉を使う事が多いのですが、意味の理解はなんとなくという範囲をこえておりませんでした。

「花育」は正直に言うと何を教えるのか、学ぶのかさえピンと来ておりませんでした。

しかしながら、色々な方とお話しさせて戴くと、こういう事かなとぼんやりと見えてきた気がしてきましたので、改めて語源や意味を調べてみました。

「食育」の語源は、明治時代に福井県出身の医師・石塚左玄が著作(化学的食養長寿論、通俗食物養生法)で「体育智育才育は即ち食育なり」と書いたことが始まりでした(同郷の私も、つい最近まで知りませんでした)。

食育は、国民一人一人が、生涯を通じた健全な食生活の実現、食文化の継承、健康の確保等が図れるよう、自らの食について考える習慣や、食に関する様々な知識と食を選択する判断力を楽しく身に付けるための学習等の取組みを指します。2005年に成立した食育基本法においては、生きるための基本的な知識であり、知識の教育、道徳教育、体育教育の基礎となるべきもの、と定義されています。なんと法律があります。

「花育」とは、「花を教材に生命や個性について、子供などに考えてもらう活動」を指し、農林水産省の定義によると「花卉(かき)の多様な機能に着目し、教育、地域活動に取り入れること」とあります。

言葉の意味を理解してみると、私でも何かやれそうな気がしてきました。

難しいことは解りませんが、野菜や花を通して人と交わり、子供と交わる。人から人へ、親から子へ、おじいちゃんおばあちゃんから孫へと繋がっていきます。何だかどんどん楽しくなりそうです。

私たちの仕事は未来への種を播き、育み、そして植物と共に生きてゆくことです。



喜びの種は「野菜の種」、幸せの種は「花の種」
さあ、播きましょう。





6回目の支援活動を行って

平成25年10月29日

ガーデンを考える会では、東日本大震災地域の小学校に対する支援活動として、春と秋の年に2回の支援活動を行っています。今秋は、岩手県釜石市の小学校2校及び宮城県気仙沼市の小学校11校に対し、6回目の支援活動を行いました。

冬から早春の校舎周りを彩ることが出来るように、会員メンバーからパンジー・ビオラを主体とした花苗や秋植え球根、それを植え込むコンテナや培用土及び肥料等、花育授業に使用する花材、またそれらを購入する資金を募り、コンテナや花壇作りの支援、及び花育授業活動を行いました。



今回は10月24日に気仙沼市の小学校4校(小原木小学校・鹿折小学校・唐桑小学校・中井小学校)に会員有志10名と訪問し、児童や仮設住宅の皆さんと共に花苗等の植え込み活動を行いました。コンテナへの植え込みは、6回目ともなると既に1度は経験した児童が殆どで、簡単な説明だけでどんどん手早くスムーズに進んでいきます。また、昨年からの取り組みを行っている花育授業は、植え込みとは違った興味を持ってくれ、切り花を使ったアレンジ作りをしながら植物についての話を熱心に学んでくれました。

活動の合間に、町全体が壊滅的な被害を受けた陸前高田に出かけ、会員企業のシモジマさんの取引先「米沢商会さん」の被災跡を視察しました。陸前高田は海への開口部が広く、街の大方が津波に呑み込まれて、街ごと消滅したような大きな被害を受けた地域です。現在では、以前に見られた半壊したビル等や瓦礫の撤去作業が終わり、一面に雑草が生えただけの風景が広がっています。米沢商会さんの3階建てのビルはオーナーさんの「後世に残したい」という意向により、現在も被災後のそのままの形で、広大な陸前高田の市街地跡にポツンと佇んでいます。幸いなことにオーナーさんは屋上の給水塔のハシゴに一昼夜しがみついで難を逃れ、その救助の様子はテレビに映し出され記憶に残っている方もいらっしゃると思います。

今では仮設の店舗で営業を続けられていますが、自分たちがこの大災害に遭ったとしたら、果たして会社を続けていく意思を持つことが出来るのだろうかと考えてしまうほど、絶望的な風景に言葉もでない状態でした。

そんな荒れ野原のような中、山際に近い一部に、ちょっとしたガーデンが作られていました。恐らくボランティアによって植え込みがされているのでしょう、色とりどりの花達が、全く人の気配の無い荒涼とした風景を和ませてくれました。

震災から2年半以上たちましたが、沿岸部のかつて住居があった地域では、概ねこのような状況です。我々が日常の仕事をしたり、家族と暮らしている風景とは全く違う景色です。園芸関係者だから出来る支援が、ここには確実にあると思われれます。ちょっとした「一緒にやろう」という気持を持っていれば、悲しい風景に花を咲かせることが出来るようになります。

あの未曾有の大災害を風化することなく、できるだけ多くの人々が支援に係って頂けるよう、ガーデンを考える会では継続的な支援活動を予定していますので、ぜひとも多くの皆様が参加していただけるよう期待しています。



NPO法人ガーデンを考える会 会長 水野 隆

■今回特別に支援活動に協賛いただいた会員等の皆様

アップルウエア(株)、(株)アルパティオ、キムラグリーン(株)、(株)シモジマ、豊明花き(株)、中島商事(株)、(株)ハイポネックスジャパン、ハクサンインターナショナル(株)、(株)花ごころ、北越農事(株)、(株)フラワーオークションジャパン、(株)牧野、(株)ユニソン、(有)緑花技研、(株)レイハウス、園芸業界被災地支援の会



フラワーライアルジャパン2013

3割以上の来場者増で盛況

園芸業界の次シーズンを考える場として欠かせない商談会へと成長したフラワーライアルジャパン。今年は9月25~27日の3日間、過去最多の全16会場を使って植物・資材の新商品や新提案が紹介された。来場者は昨年2100名から2800名と3割以上アップする大盛況となった。当会が主催したガーデントライアルフィオーレ会場では、49社が出展し、過去最高となった。



フィオーレ会場では、開幕に先立ちオープンセレモニー



コンテスト「フラワーライアル2013大賞」植物部門の最優秀賞にはダリア「マキシ・サリナス」(ハクサンインターナショナル)が選ばれた。



ガーデニングワールドカップ フラワーショー2013 in JAPAN

「ガーデニングワールドカップ フラワーショー2013 in JAPAN」が10月12~11月4日、ハウステンボス(長崎県佐世保市)で開催され、最優秀作品賞など各賞が決定した。

世界のトップガーデナーが集結し、「緑と花による平和と再生への祈り」をテーマに作品を製作。ショーガーデン部門(100㎡) 8作品と、ホームガーデン部門(25㎡) 8作品の各作品に対し、4名による厳正な審査が行われた。

ショーガーデン部門の最優秀作品賞
(農林水産大臣賞)



Timeless Tropical-Peace with Nature
(永遠の熱帯-自然と平和)

ジョン タン&レイモンド氏(シンガポール)

11月22日は「いい夫婦の日」花贈りキャンペーン

2年目を迎えて盛り上がる

昨年から、花市場協会を中心に11月22日「いい夫婦の日(1122)」に花を贈りあうキャンペーンが始まったが、2年目の今年もポスター、のぼり、植物につけるタグなどを市場から小売店や生産者に配布が始まっている。豊明花きの9月28日のトレードフェアでは、昨年の倍以上の商品が展示される盛況で、小売店側も商品が多くなったことで売り場作りがしやすくなり、熱心に選ぶ姿も見られた。



豊明花きのトレードフェア





カエデ
kaede



近頃思うこと

今年も、全国的に記録をぬりかえるほど暑かった夏がようやく終わったかと思えば、10月に入ってから30度を超える日が続き、加えて度重なる台風の到来により、厳しい秋商戦を迎えています。

そんな中、先日地元のイベントに合わせて、花農家の仲間たちと自慢の品々を持ち寄り、即売会に参加してまいりました。会場は大きなショッピングセンターの敷地内で、好天に恵まれ、お客様の入りも良かったのではないかと思います。出展者のほとんどは食に関するもので、野菜や加工品の販売で、花を売っているのは私たちのブースだけでした。

午前中、売れたのはほんの数鉢。「荷物になるから買うのは帰り際。売れるのはこれからだよ。」

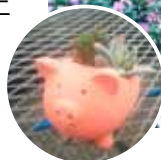
午後になり、お客様の入りはピークを迎えました。しかし、花の売れ行きは一向に回復しません。周囲の出店ブースは順調の様子でした。しかし私たちのところに足を止めて、花を手にするお客様は1割もいなかったのではないのでしょうか。価格も値頃で品質も決して悪くありません。なぜ売れないのか、みんなであれこれ考えてみましたが、結果は「花より団子」でした。わかってはいたものの、いかに園芸人口が少ないかを痛烈に再認識した一日でした。

ガソリンの高騰に加え消費増税が決まり、これから買い控えの時期をむかえる中、私たちはどのようにしていけばよいのでしょうか？ 政府あげて給料の値上げがさげられておりますが、その恩恵に与ろうと思うのは虫のいい話でしょうか？

園芸愛好家には更なる喜びを、今まで興味のなかったひとにも最初の一鉢を手にとっていただけるきっかけづくりを、そして初心者のかたにも飽きられず楽しんでいただけるよう、今まで以上に花業界全体で考えていく必要があります。私は生産者という立場から、しっかりとその一端を担えるよう、好きな花作りを楽しみながら、一生懸命取り組んでいきたいと思っております。



(有)三和園芸
鈴木ちひろ



会員紹介

(株)刀川平和農園 西日本事業本部

弊社は、園芸の普及に寄与することを旨とし、他社に先駆けて昭和32年に園芸用土採掘販売事業を開始し、鹿沼土の卸販売からスタートしました。

本社(栃木県鹿沼市)より、独自の製法技術を確立し『安心・安全・清潔な土』を生み出すとともに、オートメーション化の推進により多くの皆様に弊社ご愛顧頂けるように取り組んでおります。(東ブロック)

西ブロックにもご愛顧頂けるよう、西日本事業部開設、中部工場・関西工場・岡山工場と本社同様の製法技術にて本土全てに『安心・安全・清潔な土』を提供することが出来るようになりました。

大地は生命の源です。「よい土は栄える。」の考えとともに、私たちの使命は、自然の恵みを大切に生かし、人々に心のやすらぎを届けることだと考えます。



株式会社 刀川平和農園 西日本事業部本部
愛知県豊橋市江島町 117-1
TEL(0532)-46-4262 FAX(0532)-48-6964
<http://www.tachikawa-heiwa.com/>